

第62回 愛知県総合教育センター研究発表会
新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究

豊かな学習保障のための
評価に向けて

助言者 愛知教育大学 竹川慎哉



豊かな学習保障のための評価に向けて

1. 「指導と評価の一体化」に向けたマネジメントシートの活用、授業改善について
2. 効果的な振り返りについて
3. 「主体的な学習に取り組む態度」の評価に向けて
4. 豊かな学習と評価活動に向けたアプローチについての提案

1. 「指導と評価の一体化」に向けたマネジメントシートの活用、授業改善について

(1) 単元計画 = 評価活動計画の全体像の見える化 (構造化)

- 3 観点に対応する授業内容が単元計画に準備されているかが一目瞭然となる
 - 1 時間に 3 観点すべて? 主体的に学習に取り組む態度のみ? 1 単元に「思考・判断・表現」が何回も必要 (可能) ?

- “あれも これも いつも”の評価を避ける

※評価の数で妥当性を担保しようという考えが背景にある。評価を取るための授業展開になりがち。

※評価は回数ではなく、「評価したいこと・ものが評価できているか」の「妥当性」が重要。

1. 「指導と評価の一体化」に向けたマネジメントシートの活用、授業改善について

(1) 単元計画 = 評価活動計画の全体像の見える化 (構造化)

○留意点：「目標と評価の一体化」「指導と評価の一体化」を重視することが、「つじつま合わせ」や形式的な整合性にとどまらないように！

- 「指導と評価の一体化」の整合性の重視が1時間1時間の指導過程をどう創るか→それが評価と対応しているかだけを意識していると、「単元」を通して形成したい力 = 目標に向かっていかない。単元の全体構造の中で1時間の授業を構想することが重要。
- 「目標と評価の一体化」についても、目標と評価が一致していれば良い（「目標と評価の一体化」の形骸化）という理解にとどまると、指導過程の空洞化を招く。

1. 「指導と評価の一体化」に向けたマネジメントシートの活用、授業改善について

(2) 指導改善のための評価

- 単元の目標・展開・評価を「見える化」することは、児童生徒の正確な学習状況をつかみ、「成績」をつけることが第一の目的ではない。節目節目で児童生徒の「わかり具合／わからなさ」をつかむことで単元の展開や授業内容を修正し、学習を保障するため。
- 形成的評価は学習保障のための評価（B.ブルーム、目標の分類学とマスタリー・ラーニング）。児童生徒の学びの様子を見取ることによって授業内容・展開・方法を見直し、学習を保障することが本質的な目的。
- 単元計画や次時の授業展開が変わることは良いこと、という意識転換が必要
- 授業の流れのまっただ中には見えない・気づけない児童生徒の姿がある。児童生徒が書いた「振り返り」を通して、彼らの側から授業を見直す作業＝リフレクション（教師の省察）

2. 「振り返り」は重要な学習活動

(1) 振り返る場の設定（対象と時間）が重要

- 「振り返り」は授業内容の「まとめ」ではない
- 振り返る主体は生徒（教師がまとめ、それを書かせることで振り返りを終わらせていないか）
- 「○○がわかりました」で終わっていないか

➤ 何について振り返るかが生徒にとって明示的か（「ねらい」に向けて限定的に問う）

※限定的な問い＝狭い問い、答えが決まっている問い、ではない

「何について」考えるか、振り返るかの限定

➤ 「振り返り」のための十分な時間が確保されているか（毎回5分より、3回目に15分という発想も）

→ 「振り返り」はそれ自体学びの一部（学んだ「後」ではない）

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

- 「知識・技能」や「思考・判断・表現」に関わっての主体的態度を評価する、というのが基本的な考え方
- 教科固有の見方・考え方を働かせて学ぼうとしているかどうかを評価するという点では、「思考・判断・表現」と連動した主体的態度の評価が取り組みやすい

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

○中2・国語「星の花が降るころに」（※塩津中学校の実践報告）

➤「ヤマ場」（その単元の学習において期待する学びの姿が最も発揮される場所）をどこに設定するか？（教材研究から導き出され、多様な設定の仕方がある）

- 読み取りを踏まえた上でのスピンオフ作品づくり（塩津中報告）
- 「私は銀木犀の木の下をくぐって出た」の解釈（比喩による描写が豊富なこの物語の楽しみ方）を伝える活動（実践協力校・一宮聾学校 濱地航平教諭）

→この学習課題に取り組む児童生徒の姿を①期待する思考・判断・表現の中身と②それに付随する態度（向かい方・向き合い方）に分けてみる

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

塩津中報告

スピンオフを書いてみよう⑩⑪⑫⑬

- 続編か他者視点かを選び、物語のスピンオフ作品を書く
- ・「私」はクラスで新しい友達をつくるんじゃないかな
 - ・「戸部君」の心情が情景描写を使って表現できたよ
 - ・みんなはどんな物語を書いたのかな

象徴的な表現を用いてスピンオフ作品を考えることができる。
(作品)

自分の作品を推敲することができる。(作品・ふり返し)

推敲を重ねながら(主体的態度)、物語の読みを踏まえたスピンオフ作品を書く(思考・判断・表現)

一宮聳学校 濱地教諭

○ヤマ場の課題に取り組む。 ⑤⑥⑦

小学6年生のまさるさんは、「星の花が降るころに」を読んで、こんなことを言いました。「よく分からないや。最後に『私は銀木犀の木の下をくぐって出た』って書いてあるけど、夏実や戸部君とどうなるのか、結局分からないままだもん。うーん、つまらない」まさるさんに、最後の一文の意味について説明して、この物語の楽しみ方を教えてあげてください。

『銀木犀の木の下をくぐって出た』という一文が、夏実との関係にこだわらず前を向く「私」の決意を暗示していることに思い至り、書き表すことができる。

場面や描写を結び付けて読むことのよさに気づき、進んで場面や描写を結び付けて内容を解釈しようとしている。

この物語の楽しみ方を教える(思考・判断・表現)ことを通して、場面や描写を結びつけて読むことの良さを味わう(※伝える文章の中に表現されてくる)(主体的態度)

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

- 教科内容によっては、学習課題に対する粘り強さや自己調整だけでなく、「生活や他の学習に生かそうとすること」「他者との協調性・協働性」なども「主体的に学習に取り組む態度」に入れる（協働性、コミュニケーション一般にならないように注意）

4. 学習評価への教材研究・発問アプローチ

- 「目標－指導－評価の一体化」の形骸化や空洞化を避けるためには、豊かな教材研究と発問研究（多視点からの教材研究）を行い、単元→各時限の目標を設定する。
- 子どもの見取り＝形成的評価による学習保障という点からも豊かな教材研究は重要。児童生徒が授業目標に到達する仕方＝思考の対象である教材の味わい方やわかり方は多種多様。それを理解するためには多視点からの教材研究が不可欠

ご清聴ありがとうございました。

愛知教育大学 竹川慎哉

takekawa@aecc.aichi-edu.ac.jp



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION